風のささやき 62号

山仲間アルプ

平成 30 年 11 月 1 日発行

この１枚

五色ヶ原（北アルプス）

山　行　報　告

★東吾妻山(6 月 30 日～7 月 1 日)

参加者　会員(健常者４名、障害者２名)
　　会員外(健常者２名)

☆６月３０日

新幹線を福島駅で下車する。福島市は好天に恵まれとても暑かったが、吾妻連峰方面は稜線部分を雲が覆っていた。今日は展望がないかなと思われた。

バスは、土湯温泉を経由して安達太良山方面からスカイラインに入る。バスの車窓から吾妻連峰方面が見え、土湯峠に着くと磐梯山も見えてきた。雲が比較的多かったが、展望はよく、山頂からの展望に期待が持てると思った。

景場平付近を歩く

浄土平手前の鳥子平でバスを降りる。バスを降りたところが登山口。準備をしてすぐに出発する。２日ほど前の雨のせいで、登山道はぬかるんでいるところが多い。大きな石の多い道でもあり、滑りやすいので注意して登る。サラサドウダンやベニサラサドウダンが見られるようになる。傾斜が緩くなると景場平に着く。木道に座って昼食タイムとする。湿原には多くのワタスゲが風に揺れている。その向こうにこれから登る東吾妻山が見えている。

池の畔に咲くワタスゲ

昼食後、木道を進んでいくと、池が現れた。池の畔にもワタスゲやウラジロヨウラクが咲いている。木道の脇には、モウセンゴケが多く、ミヤマリンドウやイワナシも咲いている。また、コバイケイソウも咲いていた。今年は当たり年になるのだろうか？

クマザサのヤブを登る

東吾妻山への登りは、次第にクマザサが増え、藪漕ぎをするところも出てくる。クマザサをかき分けるように登っていく。とにかく虫が多く、無視できない。みんなの頭の周りを無数の虫がぶんぶん飛び交っている。こんな所は少しでも早く抜けたいが、そうもいかず、手で虫を払いのける程度しかできない。

東吾妻山山頂にて

それでも、ようやく展望台付近に出た。完全に雲に包まれ、雷も鳴ってきたので、展望台は寄らず、そのまま山頂に向かう。雷は次第に近づいているように感じた。東吾妻山の山頂は、雲に包まれて展望がなかった。雨の神が元気づいたようで雨も降り始め、雷も鳴っているので、集合写真だけ撮って、早々に下山にかかる。

下るにつれて雨も止み、霧も晴れてきて明日登る一切経山方面も少し見えてきた。雷様も少しおとなしくなってきたようだ。姥ヶ原に着くと、東吾妻山も見えるようになってきた。ハクサンシャクナゲやマルバシモツケも咲いている。チングルマやコイワカガミも咲いている。

鎌沼の畔にて

少し遠回りだが、鎌沼の縁を通って浄土平に向かうことにする。かわいいアカモノの花やツマトリソウを楽しみながら浄土平に着く。今日、石巻を出発して吾妻小屋に来るＧさんにショートメールを送り、こちらは１７時頃小屋に着きそうであることを伝える。一番短いコースで

吾妻小屋に向かう予定だが、ワタスゲの群落が見えたので、そこまで行ってみることにする。湿原にワタスゲの群落が広がり、すばらしい場所だった。

車道に出て、鎌沼をぐるっと回るコースを歩き、吾妻小屋を目指す。ここは完全な山道だった。雨も降り始めてきた。ようやく右手に吾妻小屋が見えるようになり、ホッとする。小屋に着くと、すぐにGさんが出てきた。Gさんたちも今着いたところらしい。久しぶりの再会を喜び合う。今回は、Gさんの息子さんと友だちも参加だ。若い二人は、やっぱりうらやましい。

早速、ビールでのどを潤し、夕食となる。２１時が消灯で、それ以降はランプが二つつくだけになるとのこと。今回は、我々だけの貸し切り状態だった。恒例の歌を歌い、若い二人には聞いたこともない歌ばかりだったが、付き合ってもらった。

吾妻小屋にて

★７月１日

今朝は快晴で明けた。一人で車道付近まで散歩に行くというＦさんと、Ｆさんを探しに行ったNさんがなかなか帰ってこない。もうすぐ朝食の時間なので、車道方面に探しに行く。ようやく二人が帰ってきた。Ｆさんは、両目のまぶたをブヨと思われる虫に刺されてしまったようで、お岩さん状態だ。目を開けられず、さらによく見えない状態らしい。

朝食を摂り、１時間ほど遅れて、吾妻小屋を出発する。まだ体調が万全でないGさんは、山には行かず、一人で高湯温泉に来るまで行って待っていてくれる予定だ。Gさんと別れて、出発する。

ワタスゲの咲く浄土平と一切経山方面

浄土平では、Ｉさんの計らいで再度、ワタスゲの群生地に立ち寄る。今日は、朝日が降り注ぎ、とても明るい。逆光ではあるが、吾妻小富士もよく見える。

木道を歩き、さらに登山道を登って酸ヶ平に向かう。足下にはハクサンチドリも咲いていた。ハクサンシャクナゲもきれいに咲いている。階段を登っていくと、酸ヶ平に到着する。池塘には谷地坊主も見られた。

少し休憩した後は、登山道を登り、酸ヶ平避難小屋でトイレタイムとする。避難小屋は広いが、木の床が少なく、地面には少し暑いベニアを敷くのだろうか？

一切経山に向かって登る

さらに一切経山を目指して登っていく。ミネザクラが咲いている。振り返ると、酸ヶ平と鎌沼が見え、昨日登った東吾妻山もよく見える。登るにつれて、安達太良山方面も見えるようにる。磐梯山は残念ながら雲がかかって山頂が見えない。その右手には、残雪の多い上越の山が

見えていた。越後三山方面ではないかと思われる。

ミネザクラ

コマクサが咲いていても不思議でないようなザレ場を緩やかに登る。一切経山の山頂が見えてきた。山頂に着くと、西吾妻山方面がよく見えるようになる。吾妻連峰はとても緩やかな山頂が多く、ピークがはっきりしない。だが、ガレ場等が多く、苦労するところもある。

一切経山山頂にて

山頂からは、五色沼がよく見える。ほとんどの登山者が五色沼が見える斜面で休憩している。太陽が雲に隠れていたので、沼の色合いが今ひとつのように感じたが、青空を映したら、きっと真っ青な沼になるのだろうと思う。

山頂で休憩した後は、五色沼方面に下る。五色沼はすぐ近くに見えたが、意外に時間がかかった。それでも五色沼の横を通り、家形山への分岐に向かって登っていく。この付近からは、青空を移した青い五色沼とちょっとはげ頭のような一切経山がよく見えた。この景色ももう見納めだ。樹林帯へと下っていく。

追分を過ぎ、慶応吾妻山荘への分岐で昼食タイムとする。２０年ほど前に慶応吾妻山荘に泊まったことがあるので、寄り道してみたかったが、時間がかなりオーバーしているので、早めに下山を開始する。このままだと高湯温泉に入る時間がなくなりそうであり、それどころかバスに間に合わない可能性もあるので、車で高湯温泉に行っているＧさんに不動沢まで迎えに来てもらえないか電話するが出ないので、ショートメールを送ってみた。

五色沼と一切経山

しばらくして電話がつながったので、来てもらえることになった。ところどころ歩きにくい箇所もあるが、昨日よりはずっと歩きやすい。全員が車に乗れないので、４人が先行して下っていく。

不動沢に着いてもＧさんの車が見えなかったが、息子のＫさんが探してきてくれた。Ｋさんからバスで帰るメンバーを優先して送っていただく。Ｎさんは２便目となる。入浴できる時間が短くなり、申し訳ないが先に行かせていただく。

吾妻小富士

高湯温泉の公衆温泉に入っていると、女湯か

らＦさんの声と共にＮさんらしい声も聞こえた。吾妻山荘の親父さんが駐車場で見つけていただいて、乗せてきていただいたらしい。親父さんに感謝です。

久しぶりに会えたＧさんや息子さん、その友だちと別れを惜しみ、私たちは福島駅行きのバスに乗り込んだ。麓に下りて、吾妻連峰を振り返ると、すでに雲に包まれていた。

記：網干

コースタイム

6/30　鳥子平(11:35)…景場平(12:05-12:30)…東吾妻山(14:35-14:45)…吾妻小屋(17:00)

7/1　吾妻小屋(7:30)…酸ヶ平分岐(8:40-8:50)…一切経山(9:40-9:55)…慶応吾妻山荘分岐(11:40-11:55)…不動沢駐車場(13:10)

★尾瀬ヶ原(7月14日～15日)

参加者　会員(障害者２名、健常者６名)
　　会員外(健常者３名)

☆7月１４日

今回は、当初１６人の参加予定だったが、キャンセルが多く、当日の参加者は１２人になった。当日は、いつも３時に起きているＹさん夫妻が寝坊してしまうハプニングがある。Ｙさん夫妻は、新幹線で追いかけることになる。

集合場所では、Ｍさんが来ない。電話番号が分からず、連絡しようがない。ＭさんはＹさんの友人なので、バスで行くことだけ伝え、集合場所を伝えていない可能性もあると思い、バス停に行ってみるとＭさんがいた。これで、１２人はなんとか合流できて、行くことができそうだ。

ところが、戸倉に着く頃、Ｆさんが肩の痛みが強くなり、今回は山には参加せず、ここから引き返すとのこと。少し前に、自転車がぶつかってきて肩を痛めたらしい。こちらもすぐにバスの時間が迫っていたため、１５分ほどで来る上毛高原行きのバス停に案内したが、しっかりとバスかタクシーに乗れるようにできなくて、申し訳なかった。

鳩待峠への連絡バスになんとか乗り込み、鳩待峠に向かう。鳩待峠のバス停は、峠より少し下に移されていた。バス停に着くと、バスの中から材木の上に純白の鳩が止っているのが見えた。「おー、鳩が待っているから鳩待峠だ。」と感動する。余計なことだが、少し戻って写真を撮らせていただく。

鳩待峠に鳩が待っていた

すでに新幹線で来たＩさん親子とＩＣさん、それにＹさん夫妻が鳩待峠で待っていた。山小屋で入浴できるのが１７：３０の夕食前までなので、自己紹介と軽いストレッチだけして、早々に出発する。

まずは山の鼻までの下り。木道や階段が続く。ＭＮさんとＫさんがなかなか下りてこない。心配になる登り返してみる。どうも、ストックのセットに時間がかかったらしい。それならと先に下り始めたが、後で人の大きな声がする。様子が分からないので行ってみると、ＭＮさんが木の階段の板の間に足を挟まれる形で階段から落ちたようだ。一緒にいたＫさんと周囲にい

た他の登山者の人が心配してくれている。板に座って足を上げれば板の間から出せるので、足を上げてあげる。他の登山者に手伝っていただいて、MNさんは立ち上がることがで来た。

山の鼻に下る

その後、みんなと合流したが、木道を踏み外すことが多く、私とKさんで、足の置き方を注意して下っていく。ようやく山の鼻に着いたがが、この先、長い木道を転落しないで歩くことは難しいと判断し、今日は山の鼻に臨時で泊まってもらうこととする。しかし、山小屋はどこも満員で、絶対に泊められないという。ビジターセンターに相談するが、引き返すしかないので、私が付き添ってMNさんと鳩待峠に帰ることにする。本体は、Nさんにリーダーをお願いし、みんなで弥四郎小屋まで行ってもらうことにする。

MNさんの後について、身体が右側に行かないように、ザックを持ちながら足下を見みながら一緒に歩く。ビジターセンターから話を聞いたのか、尾瀬保護財団の方が二人登ってきてくれた。男性は、MNさんのザックを背負子に付けてくれる。もう一人の女性は、途中で熱中症で横になっていた人に付き添うことになった。

MNさんは、がんばって鳩待峠まで戻ってきた。私はこれから見晴まで行くので、保護財団の方にお礼を言い、早々に山ノ鼻に向かった。途中で横になっていた方は同行の夫と一緒に登ってきていた。しかし、さらに下ると、また女性が倒れている。比較的若いグループで、5人ほどいたので、大丈夫だというので、そのまま下っていく。

山の鼻で、ビジターセンターの方にお礼を言い、無事に鳩待峠に着いたことを伝えて、見晴に向けて歩きはじめる。

日本一小さいハッチョウトンボ

ハイペースで歩くが、花が咲いていたり、野鳥がいると、写真タイムとなる。しかし、もう遅い時間。ほとんど人はいない。寝そべって写真を撮っても大丈夫。

逆さ燧

普段は大混雑する尾瀬ヶ原をたった一人で歩けるのは、なんとも言えず、気持ちがよい。「誰もいない尾瀬（ほんとは海ですが）～♪」と口ずさみたくなる。

誰もいない尾瀬

燧ヶ岳に向かってぐんぐん歩く。久しぶりのハイペース。しかし、もう夕食時間の１７：３０には間に合わない。それでもがんばって歩く。テント泊の若者たちのグループを抜き、竜宮小屋で水分補給をする。すぐに出発して見晴の弥四郎小屋を目指す。見えているけど、やはり時間はかかる。

ホオアカ

小屋に着くと、まだ入浴できるとのこと。夕食まで１５分ほどあるので、先に入ってほしいとのことなので、すぐ部屋に入ってザックを置き入浴する。汗を流すだけだがスッキリする。

他のメンバーを見つけ、合流を喜び合う。木道で転んだり、踏み外した人もいたらしい。今回は、ハプニングが相次いでいるので、明日は注意して歩きたい。

弥四郎小屋の夕食風景

☆７月１５日

朝食は６時２０分から。５時４０分頃起きて、散歩をしてくる。朝霧が立ち上がり、少し幻想的な感じがする。朝食を食べ、小屋の前で集合写真を撮って出発する。

昨日は暑かったが、朝の尾瀬はやはり気持ちがよい。みんな快調に歩いている。足下には、コバギボウシやキンコウカが咲き、遠くでカッコウの声が聞こえる。ミズバショウは大きな葉を広げている。ところどころにある池塘が心を和ませてくれる。

弥四郎小屋にて

竜宮からは少し遠回りして、ヨッピ橋経由で山の鼻に向かうことにする。トキソウやサワランが咲き、時々ウラジロヨウラクも咲いている。朝のうち、一部雲に隠れていた至仏山もしっかりと姿を現している。白樺とのコラボも絵になる。池塘に姿を映しているところもあった。

尾瀬ヶ原を歩く

前回この季節に尾瀬に来たときは、ニッコウキスゲが満開だったが、今年は群生しているところにも余り咲いていない。暑い日が多くて、もう時期を過ぎてしまったのだろうか？　アヤメは咲いていなかったし、カキツバタも前回より少なく感じる。気候の変化が心配だ。

ノアザミは昆虫たちに大人気。多くのコキマダラヒカゲが止っている。池塘で飛んでいたイトトンボは、ルリイトトンボのようだ。真っ赤なトンボは、日本一小さいハッチョウトンボだ。

中田代三叉路を過ぎると、大混雑になる。余りゆっくり写真を撮っていられない。ここは尾瀬の銀座通りのようだ。

ボッカの人とすれ違う

メンバーはみんな順調に歩いている。Ｉ君も絶好調。すいすい軽やかに歩いている。ボッカの人が１００ｋｇくらいの荷物を担いですれ違っていく。本当に大変な仕事だ。ヒョウモンチョウが舞い、コオニユリが咲いている。山ノ鼻に着くと、コオニユリも咲いていた。かなり時間があるので、ここでゆっくりすることにする。みんなでアイスクリームを買って食べていた。熱くなった身体に冷たいアイスが入ると、一瞬ではあるが、身体が冷えて気持ちよい。

コオニユリ

ビジターセンターに、昨日、相談に乗ってくれた方がいたので、お礼を伝える。あとは、最後ののぼり。水分補給をして、ゆっくり登っていく。オオルリがさえずり、メボソムシクイがすぐ近くに現れてくれた。

鳩待峠に着き、昼食を摂る。予定より少し速いバスで戸倉に向かう。戸倉で、沼田に実家があるＮさんと別れ、新幹線で帰るＩさん親子とＩＣさんとも別れる。

私たちは暑いところで待っていたが、しばらくしてすぐ近くに温泉があることに気がついた。次回、利用するときは、早めに下りて温泉に入ることにしよう。

いろいろあったけど、全員無事に下山できて、ホッと一安心。尾瀬号の高速バスに乗り込み、帰宅の途についた。　　記：網干

メボソムシクイ

コースタイム

7/14　鳩待峠(12:40) …山の鼻(14:00-14:25)…鳩待峠(16:00)…山の鼻(16:35-16:40)…竜宮小屋(17:45)…見晴(18:05)

7/15　見晴(7:25)…竜宮小屋(7:55-8:05)…ヨッピ橋(8:35-8:40)…山の鼻(10:00-10:55)…鳩待峠(12:15)

★登山知識及び技術養成コース（五色ヶ原）(7 月 27 日～7 月 28 日)

参加者　会員(障害者１名、健常者３名)

☆7 月 27 日

都内から室堂まで直行できる夜行バスに乗り、一路室堂へ。しかし、バスの中の冷房を自分の側に向けないようにすることがうまくできず、少し痛かったのどがさらに痛くなってしまった。完全に風邪を引いてしまったようだ。

室堂到着が７時１０分頃。この時間は、まだ

ケーブルが動いていないため、人は少ない。しかし、すぐに大勢の子どもたちが来て、非常に賑やかになった。

チングルマ

直前になって、台風が直撃する予報になり、女性二人は、室堂に泊まって、明日の朝、帰るとのこと。五色ヶ原まで行くのは、私とＩさんだけとなる。台風の状況によって、五色ヶ原から室堂に引き返すことも考えている。台風の進路次第になるだろう。

ミクリガ池と毛勝三山

五色ヶ原は、３９年前に１度だけ、通過したことがあるが、その時は連日雨にたたられ、せっかくのダイヤモンドコースなのにほとんど展望を得られなかった。しかし、最後だけは快晴に恵まれたことをしっかり覚えている。その時は、夜行急行が大雨で遅れて富山駅に着き、１日目のコースを変更したことや、スゴ間山のキャンプ地に着いた途端に土砂降りになり、一晩中一睡もできなかったことなど、思い出の多い縦走だった。今回は、少なくても１日目は好天が期待できそうだ。

室堂から室堂山荘の分岐まで行く。大勢の子どもたちが休んでいて、とても賑やかだった。早々に出発することにする。

別山と剣岳

残雪の上を歩き、その先は、コンクリートで固められた遊歩道となる。振り返ると、ミクリガ池が下に見え、遠くには毛勝三山が見える。奥大日岳も見えている。奥大日岳より高くなると、室堂山は近い。室堂山からは、立山カルデラの向こうに、五色ヶ原や薬師岳、遠く槍ヶ岳も見える。すばらしい展望だ。

室堂山山頂にて

ここから、浄土山への登りとなる。標高差１６０mほど。ハイキング気分の女性陣は、きつく感じたようだ。浄土山に着くと、ここも子どもたちであふれかえっている。少し先の富山大学立山研究所で休憩することとする。

ここで、女性二人と別れ、Ｉさんと二人で五色ヶ原を目指すことになる。ここから見られなくなる剣岳にも別れを告げて出発する。女性二人は手を振って見送ってくれた。

竜王岳の西側斜面をトラバースして下っていく。地図では残雪注意となっているが、もう残雪はなかった。ミヤマトリカブトやハクサン

フウロなどが多く見られるようになってきた。

五色ヶ原と薬師岳

鬼岳の山腹に登山道が付けられている。見えている尾根を回り込んだところが、過去に事故の起きた雪渓だろう。慎重に行こうと思う。

尾根を回り込むと、獅子岳が大きく見え、下には雪渓が見える。ステップがしっかり切られ、雪も緩んでいるので、軽アイゼンを付けるまでもなく、問題なく下り、トラバースする。

鬼岳東面の雪渓を下る

雪渓を過ぎるとお花畑が広がる。シナノキンバイやクルマユリ、ハクサンイチゲ、チングルマ、ウメバチソウ、ミヤマダイモンジソウ等々。いろんな花が楽しませてくれる。今年はコバイケイソウの当たり年だろうか。ところどころで群落が見られた。

獅子岳に着く頃にはもうお昼だったが、今日は、それほど雲が湧き上がることなく、視界はとても良好だ。これは、台風の影響だろうか？

今回のコースは、ずっと森林限界よりも上を歩くため、ずっと展望が利く。まさに稜線漫歩だ。獅子岳を過ぎると、今までは手前の山があるため、その全貌を見ることのできなかった五色ヶ原は、指呼の間に見える。五色ヶ原山荘もしっかり見えるようになってきた。

野口五郎岳、槍、赤牛岳を見ながら歩く

しかし、五色ヶ原に行くまでには、ザラ峠まで４００mほど下ってから登り返さなければならない。途中には、鎖とハシゴもあった。

コバイケイソウと針ノ木岳方

ザラ峠は、佐々成政が家康に会いに行くために越えたと言われるところ。何も装備がない時代に、こんなところを越えられたのだろうか？事実だとしたら、すごいことだと思う。

ライチョウ

ザラ峠から五色ヶ原には緩い登りが続く。そして木道が始まるところが、五色ヶ原の一画だ。まだ多少の登りがあるが、コバイケイソウやチ

ングルマのお花畑を楽しみながら歩く。好天も続いていて、槍ヶ岳もまだ見えている。

木道を歩いていると、何か黒っぽいものがガサガサと動いた。それはライチョウだった。全然逃げようとせず、私が通り過ぎると、元の位置に戻り、イワイチョウの葉を食べたりしながら、身体を震わせて、くぼみに身をおつつかせる。もしかしたら、抱卵中だったのだろうか？すぐに立ち去る。

五色ヶ原を行く

すぐ前に五色ヶ原山荘が見えるようになる。ビールを買って二人で乾杯する。入浴もできるらしい。今日は台風が心配され、キャンセルした人が多かったのだろうか？　一部屋を私とＩさんだけで使うことが出来た。宿泊客も３０人程度だったのではないだろうか？

台風の進路予報は、当初の予報とかなり違ってきて、今まで見たことがないような動きを予報している。関東に近づいてから西に進路を取る予報だ。この予報では、立山町は曇りで雨は降らない予報。しかし、上高地は朝から雨の予報。翌朝起きて判断することとする。

夜行バスでの寝不足とのどの痛みがあるので、夕食後に早々に眠りについた。

☆7 月 28 日

３時半頃起きてみると、まだ曇り空で視界もある。どうしようか迷うが、薬師岳等南部は、雲に包まれて展望はなさそうだ。今晩であっても雨が降ると、薬師岳の下りにある沢が増水する危険性も高い。自分自身の体調もよくないことから、薬師岳方面には行かず、室堂に引き返すことにする。

朝食は弁当にしていたので、昨晩もらった弁当を食べる。朝のうちは、ある程度見えていた周囲の山々も、次第に雲に隠れるようになる。雨は午後になってからと思われるが、早めに帰路につくことにする。

五色ヶ原からの朝焼け

ザラ峠付近から富山側を見ると、まだ青空も見えているが、後立山側は、重い雲に包まれ始めている。雄山も次第に見えなくなっていく。獅子岳を登り返していると、強風が襲ってくるようになる。薬師岳に向かっていたら、霧と強風との戦いだったのではないかと思われた。

強風の中、室堂に戻る

今日は、Ｉさんが先頭で歩いている。ペースはかなりハイペースだ。五色ヶ原から獅子岳までガイドの地図では２時間５分のところ、１時間半で来た。獅子岳から立山研究所まで２時間半のところ、１時間１０分だ。５パーティーほど追い抜き、とても速いペースで歩いてきた。研究所からは一ノ越経由で室堂に行くことにする。霧雨のようになり、ズボンはびっしょり

濡れるようになってきた。

一ノ越では休まず、そのまま下る。今日はこんな天気なので、登山者は少ないだろうと思ったが、今日も子どもたちの集団登山が行われている。雪渓は渋滞しているので、ステップを切ったところより上を歩いて抜ける。

ミクリガ池の残雪

昨日、室堂に泊まった女性陣は、もうバスに乗って帰路についたようだ。我々はミクリガ池温泉に入って、暖まることにする。

ミクリガ池の手前で人だかりができているので、何ですかと聞いたら、オコジョがいるらしい。温泉からの帰りでもいるだろうと思い、写真やビデオは後で撮ることにして、まずミクリガ池温泉に行く。

温泉でゆっくりした後、オコジョの撮影にかかる。望遠レンズに代えておけばよかったのに、ザックを下ろしてレンズを出す時間がもったいないので、そのまま標準レンズで撮る。石の間から顔を出してはまた潜り、石の間を動き回っている。どこから顔を出すか分からない。そんな素早い動作をする、かわいいオコジョに出会えてよかった。

扇沢に下ってあずさで帰るより、富山から新幹線の方が早いというＩさんの案に従って、新幹線で帰ることにする。これが正解だった。中央線特急のかいじはほとんどが運休。あずさもかなり運休のようだ。新幹線のはくたかは、全く遅れることなく、上野に着いた。

台風のおかげで、予定通りの行程を歩けませんでしたが、すばらしい展望と高山植物や、ライチョウ、オコジョに出会えて楽しい山行でした。そして、何よりも、いろんなアイディアを出してくれるＩさんに感謝です。　記：網干

オコジョ

コースタイム

7/27　室堂(8:00)…室堂山(9:05-9:10)…立山研究所(10:15-10:30)…獅子岳(12:00-12:10) … ザ ラ 峠 (13:05-13:15)…五色ヶ原山荘(14:00)

7/28　五色ヶ原山荘(5:40)…ザラ峠(6:10-6:15)…獅子岳(7:10-7:20)…立山研究所(8:30)…ミクリガ池(9:40)

★大人と子どものふれあい登山（北岳）(8 月 11 日～12 日)

参加者　会員(子ども２名、
障害者２名、健常者４名)

☆8月１１日

「大人と子どものふれあい登山」の最後は、日本の山で標高が２番目に高い北岳だ。登山経験の多いＭ君も、南アルプスの山は初めてとのこと。好天に恵まれることを期待する。

今日も明日も天気予報は午後からあまり良くない予報だ。それでも、今日はまだ好天だ。甲府駅から直通バスに乗って広河原に向かう。乗客は、４台ほどのバスに分乗する。多くの登

山者がいる。

甲府は暑かったが、広河原に着くと、さすがに涼しい。天気はよいが、雲が多く、大樺沢の出合から北岳山頂は雲の中で見えなかった。鳳凰三山方面は見えている。広河原山荘でペットボトルに水を満たし、登山道を登っていく。

大樺沢出合から北岳方面

キツリフネやセリ科の植物など、多くの花が迎えてくれる。少し歩いて、二俣方面と白根御池方面への分岐で昼食タイムとする。今回は、樹林に覆われて展望の利かない白根御池に直接上るコースは使わず、二俣経由で白根御池に行くコースとする。

丸太の橋を渡る

最初の大きな沢には、丸太２本の橋が架かっている。視覚障害者の二人が心配だったが、問題なくクリアする。ここから少し行くと、登山道は右岸に移る。こちらにも花が多い。キオンだと思った黄色い花は、ハンゴンソウだった。コウシンヤマハッカやレイジンソウが咲き、センジュガンピの花も見られるようになった。

再び左岸側に移って登っていく。いろんな所を人が歩くため、登山道は少し不明瞭だ。途中、ハンゴンソウの大群落があり、一面が黄色に染まってきれいだ。ミヤマシシウドもたくさん見られるようになり、ヤナギランを久しぶりに見ることもできた。８月なので見られると思っていなかったミヤマハナシノブもまだ花を付けていた。

ハンゴンソウのお花畑

二俣のすぐ下には、雪渓が残っていたので、子どもたちと行ってみる。雪渓の近くはひんやりしていて涼しい。二俣で少し休憩した後、山腹をトラバースして白峰御池小屋に向かう。セリバシオガマやトモエシオガマが咲いていた。小屋の手前でポツポツと雨が降り始めた。しかし、カッパを着けることなく小屋に到着する。

白根御池小屋

白峰御池小屋は久しぶりだが、とてもきれいな小屋になっている。一時ざーっと降った雨も止み、高峰と観音岳方面が見えてきた。夜、２２時過ぎに外に出てみると、満天の星空で、火星が赤く輝いていた。

★８月１２日

３時過ぎに起きて、外に出ると、まだすばら

しい星空が広がっていた。ペルセウス座流星群も一つだけ見ることができた。小屋の中の気温は２０℃、外は１５℃だった。予定より早く出発する。二俣へのトラバース道は、暗いため、みんなが離れないように待ちながら進む。

二俣から上を目指す

二俣に出るともうヘッドランプはいらない。鳳凰三山側はよく見えている。しかし、北岳の山頂付近には、まだ薄いが怪しい雲が広がってきた。山頂で展望があることを願うばかりだ。

二俣からは左俣コースを登る。タカネナデシコやヒメシャジン、ヤマホタルブクロ、ミソガワソウなどが咲いている。朝日がバットレスを染めるようになってきた。しかし、山頂はすでに雲に包まれ、八本歯のコルも怪しい雲が迫ってきていた。バットレス方面から人の声がしたので、見てみると２人パーティーが登っていた。たぶん、５尾根の支稜を登っていたのだと思われる。

バットレスに朝日が当たる

登山道は次第に急坂になり、とうとう雲に包まれてしまった。登山道は尾根道となり、梯子の連続となる。八本歯のコルまで１０数本の梯子がかかっていた。子どもたちは元気に登っているが、大人はフーフーだった。

八本歯のコルへの梯子を登る

天気がよければバットレスがよく見えるところだが、今回は何も見えない。深い霧に包まれた八本歯のコルに着く直前、とても華やかな花が迎えてくれる。南アルプスにしか咲かないタカネビランジだ。可憐な花が多い高山植物の中で、この花だけは「華やか」という言葉がぴったりくる。展望がなくても、この花に出会えただけで満足できる。近くにはミネウスユキソウやタカネヒゴタイ、トウヤクリンドウも咲いている。

タカネビランジ

八本歯のコルから先も梯子が見える。がんばって登っていく。タカネビランジは、ところどころ咲いている。ゴーロ帯を登ると、北岳山荘への分岐に着く。この付近はとても寒い。休憩もそこそこに山頂へ向かう。イワベンケイやミヤマコゴメグサが見られるようになる。吊り尾根分岐の手前では、小さなリンドウが咲いていた。約２０年ぶりに再会できたサンプクリンドウだ。これも予想外だったので、とても感激す

る。

吊り尾根分岐からはさらに霧が深くなり、雨もポツポツ降り始めた。雨具やザックカバーを付けて登っていく。山頂直下には、赤い雄しべがきれいなシコタンハコベやタカネシオガマの花が見られるようになる。

サンプクリンドウ

ようやく山頂に到着する。何も見えない山頂より肩の小屋でゆっくりしようという意見が聞かれたが、K 君のもう少し山頂にいたいという意見が通り、１５分ほど休憩する。山頂には、タカネビランジの大きな株があった。

北岳山頂にて

山頂から先は、ちょっとした岩場があるが、慎重に通過すれば特に危険ではない。肩の小屋で、早い昼食タイムとする。ここは展望のよい場所だが、今日は何も見えない。

小太郎尾根の分岐も何も見えないので素通りする。その下には、シナノキンバイとミヤマキンポウゲのお花畑が広がっていると思ったが、時期が遅かったのか、ミヤマシシウドが中心で、一面を黄色に染めていたお花畑は見られなかった。時期が遅かったことが理由ならよいのだが・・・？

雪に曲がったダケカンバ林を過ぎ、ぐんぐん下っていく。何度か雨も降るようになってきた。しかし、樹林が切れた草原では、少し霧が晴れ、鳳凰三山側が見えてきた。しかし、それもほんの一瞬で、歩きはじめると、再び霧に包まれ、雨も降るようになってきた。

肩の小屋で昼食タイム

二俣で休憩し、登ってきた道を下っていく。何度か雨に降られるが、日が差すこともあった。若い女性の２人パーティーと抜きつ抜かれつし、先頭は広河原山荘に到着する。帰路はバスをやめて乗り合いタクシーで芦安に行き、温泉に入って帰りたいという意見が出ていたので、そのままタクシー乗り場まで行く。広河原山荘からはお兄さんのＫ君がＦさんのサポートをしてくれる。

４年ぶりの登山だった S さんが、帰路で足がつってしまい少し遅れたが、みんな無事に１，７００mの標高差を下ってくることができた。芦安では、１７時に閉まるという店で入浴する。ゆっくりできなかったが、汗を流せただけで満足できた。店から出ると、強い雨が降っていた。少し雨にも降られたけれど、タカネビランジやサンプクリンドウが見られ、満天の星空も見られて、楽しい２日間を過ごすことがで来た。

記：網干

《参加者の感想》

参加された皆様、北岳の二日間ありがとうございました。天候には恵まれず、山頂での展望

は望めませんでしたが、山頂に咲いていたタカネビランジは自分でもよく見ることができました。しっかりと脳裏に焼き付けてきました。この時期にあそこでなければ見れないのでとてもラッキーでした。

鳥や花の名前をその場で教えて頂けるので、目の見えない自分でもとても楽しく充実した山行でした。山頂までの登りはハシゴが多く、アスレチックのようでとてもおもしろかったです。

S.Kさんには黄色いスパッツをわざわざつけていただき、申し訳ありませんでした。足どりが見易いのでとても助かりました。Kさん最後尾から安全を見守って頂きありがとうございました。Aリーダー、山頂からの下山では、雨でぬれて滑りやすく歩きづらい道でしたが、適格にサポートしていただき怪我することなく無事に降りてこれました。本当にありがとうございました。　　記：Y.F

久しぶりに長く歩けました。少し筋肉痛が出ましたが、もう大丈夫です。歩くのが遅い私に合わせて下さり、有難うございました。皆さんと歩けてよかったです。長いハシゴ、雨でぬれてしまった岩ごろの道など、体験できました。そして、また　タカネビランジにあえました。他にも、沢山の花に会えました。山って本当にいいですよね！いつまでも山に会えるように。

記：Y.F

コースタイム

8/11　広河原（11:25）…分岐（12:00-12:20）…二俣（14:40）…白根御池小屋（15:10）

8/12　白根御池小屋（4:05）…二俣（4:45-4:55）…八本歯のコル（7:15-7:35）…北岳（9:10-9:30）…肩の小屋（10:00-10:30）…二俣（12:35-12:50）…広河原（15:10）

★登山知識及び技術養成コース（雲取山）（９月８日～９日）

参加者　会員（子ども１名、健常者４名）

☆９月８日

今回は、北アルプスの霞沢岳を計画していたが、天気予報が徐々に悪くなり、安曇野や松本も、土日とも雨の予報になった。そのため、雨がほとんど降らない予報の関東で、１泊２日で登れる山を考えたところ、雲取山に行くこととした。コースは、昨年の春、計画したものの雨の予報となったため、コース変更をした三峰口からのコースで行くこととした。下山は、まだ歩いたことのない富田新道とする。

当日の東京は、晴れていた。しかし、秩父に着く頃には少し厚い雲に覆われていた。雨は夕方少し降る予定だが、それまでは曇りのままでいくと思われた。

秩父観光タクシーは、三峰口駅まで来てくれない。西武秩父駅から乗車して三峰神社まで行く。三峰神社の駐車場からさらにできるだけ奥まで入ってもらう。奥宮参道入口で下車して、出発準備をする。遠くの山は雲に覆われて見えないものの、視界は良好で和名倉山がよく見えていた。

参道を歩いて行く。奥宮への分岐があるが、奥宮へは行かず、そのまま先を急ぐ。炭窯跡を過ぎ、さらに登っていく。途中で少し雨が降ったが雨具を付けるほどではなく、すぐに止んだ。

樹林帯の山道を歩く

急坂をがんばり、地蔵の祭られた地蔵峠を通過すると、すぐに三角点のある展望のよいところに着いた。ここが霧藻ヶ岳だと思い、昼食タイムとする。通り過ぎる人が、もう少し行くと東屋があるのにと言っていた。

シラヒゲソウ

昼食後、尾根を歩いて行くと、秩父宮のレリーフのところに出た。霧藻ヶ峰の名前は、秩父宮が付けたとのこと。ここを過ぎると、登山道に手すりが着くようになる。そして、標識と東屋やベンチのある霧藻ヶ峰に到着する。ここには人が大勢いた。

ここから下っていくとお清平に着く。痩せ尾根の急坂やシラビソ等の原生林の尾根では、シラヒゲソウを見つける。さらに登っていくと、前白岩山の肩、そして前白岩山に着く。廃屋となっている白岩小屋を過ぎ、きつい登りをひと頑張りで白岩山に到着する。標高は１，９２１ｍで、今日一番高い山だ。

前白岩山にて

少し行くと鹿が現れた。Ｋ君が見つける。トリカブトも咲いていた。この付近で咲くトリカブトは、ヤマトリカブトのようだ。芋の木ドッケ付近からは、樹林の隙間から雲取山荘の赤い屋根が見えた。ということはその左上にあるピークは雲取山だ。今回初めて山頂を見ることができた。

こちらを見つめるシカ

登山道にはダイモンジソウが咲いていたが、ほとんどのダイモンジソウが花粉をなくしている。赤いきれいな葯を残しているものをやっと探し、登山道の木道に寝そべって写真を撮る。それでもピントが甘かった。

大ダワからは、男坂には行かず、左巻き気味に登る道を行く。小屋の手前でポツポツ雨が降り始めたが、すぐに小屋に着いた。

小屋の方に富田新道の様子を尋ねると、多くの倒木が道を塞いで通れないという。他のスタッフの方は、通れるという。オーナーらしき方の「通れない」に従って、明日は、予定を変更して、歩き慣れた鴨沢へのコースで下山するこ

ととする。

夜半に少し強い雨の音がしたが、比較的短時間で止んだようだ。

雲取山荘

☆９月９日

昨日、小屋に着いたときの気温が１７℃。今朝は１５℃。長袖を着てちょうどよいくらいの気温だ。部屋の窓から色づく雲が見られる。小屋の前の広場は、低いために手前の木が邪魔して地平線がほとんど見えない。しかし、K君が百葉箱のある高台に行くとよく見えるという。それでも木が邪魔をしているが、小屋の前や部屋よりは良さそうなので、そこで朝焼けや御来光の写真を撮る。

御来光

朝食後、準備をして出発する。山頂付近は、雲の中に入り、展望がなさそうだ。それでも霧が晴れることをわずかに期待して登っていく。女性陣はゆっくり登るというので、Kさん親子に先に登ってもらう。私は中間を登っていく。

山頂に着くとやはり展望はなかったが、少しすると霧が晴れて飛龍山方面が見えるようになってきた。しかし、２，０００m付近から上は雲の中だ。飛龍山の山頂も見えない。富士山も見えなかった。

山頂の原三角点

山頂で、三角標石の拓本を取っている人がいた。ここの三角点は、原三角点といって、明治１６年に埋設されたもので、日本に３つしかない三角点の一つと言うことを教えていただいた。他には、新潟県の米山、下仁田にある白髪山にあるそうだ。

雲取山山頂にて

山頂には、去年なかった標識が建てられていた。東京都は金持ちだなと思う。

霧がしっかり晴れることはなさそうなので、下山にかかる。小雲取山に着くと、富田新道への分岐がある。少し後ろ髪を引かれる思いもあるが、富田新道は諦めることにする。

少し下ると、七ッ石山や三頭山、雁ヶ腹摺山方面が見えるところに出る。天気は回復してきているようだ。

奥多摩小屋を過ぎ、富士山方面の開けた石尾根を緩やかに下っていく。もうすぐブナ坂というところで、富士山の頭が雲の上に現れた。ここを過ぎるともう富士山はほとんど見えない

ので、ここで見えるまで少し待ってみることにする。雲が少なくなり、山裾付近や山頂部が見えるようになってきた。最後に富士山からご褒美をもらったようだ。

石尾根のカラマツ林を下る

ブナ坂からは七ッ石山に登らず、巻き道を下っていく。テント泊の若い３人組と抜きつ抜かれつ。七ツ石小屋から鴨沢間には、平将門の迷走ルートらしく、銅板で作った新しい説明板が至る所にある。こんな伝説があるとはこれまで知らなかった。

車道に出て、鴨沢への山道をK君と二人で先に降りていく。バス停で待っているが、なかなか３人が下りてこないので、K君が迎えに行くという。K君が出かけて間もなく、車道を歩いて３人がバス停に来た。最後のところで、留浦方面に下りて、バス停に戻ったらしい。K君と行き違ってしまった。お父さんが探しに行ってくれた。

無事に合流し、近くに店で乾杯する。１２時２０分発のバスに乗って、奥多摩駅に向かった。

記：網干

ブナ坂手前で見えた富士山

コースタイム

9/8　三峰神社(10:05)…霧藻ヶ峰手前(11:50-12:15)…白岩小屋(14:20-14:30)…白岩山(15:00-15:15)…雲取山荘(16:30

9/9　雲取山荘(6:10)…雲取山(6:35-6:50)…ブナ坂手前(8:20-8:30)…鴨沢バス停(11:15)

★神峰山(9月16日)

参加者　会員(障害者１名、健常者４名)

ひたち１号に乗って日立駅で降りる。日立駅に降り立ったのは、２０年ぶりくらいだろうか？　駅が建て替えられていてビックリした。以前は、どこからも海は見えず、海が間近にあるとは思いもしなかったが、ガラス張りとなった新しい駅からは、真っ青な海が一望の下に見える。駅前の様子もがらりと変わり、昔、昼食を食べた古びた食堂はなくなり、広いロータリーとなって、駅舎の下にはコンビニなどが店を構えている。しかし、駅前通りの桜並木は、昔のままだった。（ように感じた）

日鉱記念館を後に出発

日鉱記念館前で下車する。昔、国体の合宿を御岩山付近で行っていたとき、金曜日の夜にこのバスに乗って山に向かった。バスに乗る人は、

仕事を終えてみんな家路の途中なのに、自分は一人でバスを降り、ヘッドランプの明かりを頼りに蜘蛛の巣を払いながら山に登っていく。「自分はどうしてこんな馬鹿なことをしているんだろう」と、加藤文太郎のような感傷に浸っていたことを思い出す。

日鉱記念館でトイレを借していただき、管理している方から大煙突にまつわるエピソードを聞かせていただく。建設中に５００フィート煙突を外国に作られたので、５１１フィートにした話とか、煙突が倒れるときは山側に倒れるように設計していたとか、煙突を作るための足場はすべて木で作ったものだとか、とても興味の持てるエピソードだった。

山頂に向けて登る

さて、問題は登山道探しだ。地図に書かれている登山口に行ってみると、かすかに踏み跡らしいものがあるが、草は生い茂り蜘蛛の巣だらけで、人が歩いた形跡はない。この道はやめて別の道を探す。地図だと稜線から道が下りてきて途中で消えている道がある。また、進入禁止になっている道路があるが、それは地図には書かれていない。道路はゲートでしっかり塞がれているので入れないが、少し先に階段があるのでそれを登って道路に上がる。

なかなか稜線から下りている登山道に行き当たらないが、この道路は、本山トンネルができる前の旧道らしいことが分かってきた。それならこの道を上がっていくと、登山道に行き当たるだろうと思って登っていったら、案の定、登山口の標識を見つけた。とりあえずこれで一安心。しかし、あまり人に歩かれていない様子で、よい道とは言いがたかった。

神峰山山頂から見た日鉱の煙突と太平洋

それでも、高鈴山からの道と合流すると、しっかりした道となる。あとは、登山道を登って行きだけだ。ただ、ここも地図にはないいろんな道がある。間違わないように、地図を見て、進んでいく。

途中で、樹林の切れ目から奥久慈男体山らしい山が見えた。南側が切れ落ちている山だ。その右奥には茨城県の最高峰、八溝山も見えていた。

神峰山山頂にて

登山道は全体に赤土で滑りやすい。注意して登っていく。ヤマジノホトトギスが咲き、リョウブのことが書かれた説明板が出てくると神峰山の山頂は近い。山頂からは、日立の町と、大煙突が見えた。今は１／３の高さになった大煙突だが、まだ煙が上がっている。山頂には、ゲンノショウコやミズヒキが咲いていた。

神峰山から次のピーク、羽黒山を目指して歩く。羽黒山の山頂でお昼にしようと思っていたが、山頂標識以外、ベンチも展望もなく、地面

も濡れているので、昼食は大煙突展望台で取ることにした。すぐに山頂を後に出発する。

ヤマジノホトトギス

ここから一旦、コルのようなところにおり、緩やかに登り返していく。何度か送電線の下を通る。蛇塚にはいわれの説明板があり、近くに大蛇の死骸を埋めた上に立てられたという石碑があった。

そのすぐ先に、大煙突の展望台があった。階段を登っていくと草原状のところに出る。人工の展望台はないが、草の上に座って食べられるので、ここでお昼とする。目の前に、１／３になった大煙突が立っていた。その右奥には鉄塔がたくさん建っている高鈴山も見えていた。

昼食後は、緩やかに下り、鞍掛トンネルの上を通過し、一旦車道に下りる。ここからの登り返しの階段が、今日一番の急登だった。鞍掛山を通過し、神峰公園へと下っていく。昔は、静かな公園だったここも、観覧車ができたりして遊園地のようになっていた。

車道を下り、目の前に広がる太平洋と青空を楽しみながら、バス停を目指す。予定のバス停より一つ手前のバス停だったが、予定のバスに乗り込み、日立駅へと向かった。　記：網干

タマゴタケ

コースタイム

日鉱記念館(9:25)…神峰山(10:30-10:45)…羽黒山(11:45-11:50)…大煙突展望台(12:35-12:55)…本宮一丁目バス停(14:45)

★大山(9月22日～24日)

参加者　会員(障害者２名、健常者６名)

☆９月２２日

今回は、２２日から２４日の計画で、２２日に大山登山、２３日に蒜山登山をする計画だったが、天気予報が悪く、好天に恵まれるのは２３日だけの予報となった。２２日の朝、米子駅に着くと、雨は上がり天気は急回復してきていた。これなら予定通り、今日、大山に登れるかも知れないと思い、るーぷバスで大山寺に向かう。

大山は雲に包まれて入れ姿を見せない。それでも急回復することも考えられるため、登るつもりでいたが、大山寺に着くと、まだ雨が降っている。そのまま、今日泊まる山の家シーハイルに向かう。

境港駅前にて

シーハイルに着き、今日の登山は中止し、明

日、大山に登ることとする。今日は観光とする。交通手段等をいろいろ考えたが、シーハイルのマスターが知り合いのタクシー運転手がジャンボタクシーに乗っていて、境港経由で出雲大社まで送ってくれるという。料金もなんとか払える範囲なので、ジャンボタクシーに乗せてもらうこととする。

運転手さんはこの付近のことをよく知っている方で、いろいろと説明してくれる。皆生温泉の近くを過ぎ、境港に行く。港付近にはイカ釣り船が並んでいた。境水道は中海、宍道湖を海とつなぐ水路だ。

境港駅で下ろしてもらい、写真を撮る。境港は水木しげるの出身地。駅には鬼太郎と妖怪たちの大きな壁画が描かれ、街路灯は目玉おやじとなり、駅前にも様々なモニュメントがある。その後、水木しげる記念館に行き、そこで妖怪が集まっているところを見る。今日は、妖怪総出で、交通安全のパレードをするらしい。ちょうどよいタイミングで、ここに来ることができた。土産物屋も妖怪づくし。ここは、妖怪一色だ。

出雲の割子そば

次は、境水道大橋を通って島根県に入る。ここから、中海の北側を通り、松江城の前を通って、宍道湖の北側を走る。そして、出雲大社に到着。運転手さんお勧めの割子そば屋さんの前で下ろしてもらう。おいしいそばを食べ、出雲大社内を歩いて、出雲大社前駅に向かう。帰りは電車の旅だ。山陰本線は、単線でまだ電化されていない。こんなこともはじめて知ることができた。

米子駅からるーぷバスで大山寺に行く。シーハイルの方が迎えに来てくれる。本当にありがたい。汗を流した後は、食堂で夕食。今日は我々だけの貸し切りだったが、翌日が登山なので、早々に床につく。

シーハイルにて

☆９月２３日

シーハイルでは４時３０分以降であれば、いつでも朝食を準備できるとのこと。５時にお願いする。シーハイルの方からモンベルの前まで車で送っていただく。今日はすばらしい天気だ。

２日目の朝

予定より１時間ほど早く夏山登山口に入る

脇道を出発する。登り口は急な階段だったが、少し登ると夏山登山道に合流する。ここからは広い道となる。そして、すぐに階段が始まる。阿弥陀堂に立ち寄り、さらに樹林帯の階段を登っていく。

大山の山頂を目指す

三合目を過ぎ、順調に登っていく。登るにつれ、木の間からわずかに麓が見えるようになる。五合目に着くと、樹林が切れたところから、島根県方面が見える。小さな子どもを前に後に背負って登ってくる強者のお父さんもいる。今日は好天なので、多くの人が登ってくるようだ。

ゴジュウカラ

帰路に使う予定の行者コースの分岐となる行者別れを過ぎ、六合目の避難小屋前で休憩する。この付近になると高い樹木が少なくなり、展望がよくなる。大山北壁がよく見え、稜線にユートピア避難小屋も見えている。麓方面は、島根半島や中海、美保湾がよく見える。

七合目を過ぎるとさらに展望がよくなる。足下は岩場が多くなる。標高１，６００mの標識を過ぎると、傾斜は落ち、弥山山頂へと緩やかな斜面となる。木道が続いている。周囲の木には赤い実が付いている。これはイチイの実と同じなので、こんな小さなイチイの木があるのかと思っていた。あとで知ったが、これがダイセンキャラボクだった。

ダイセンキャラボク

目の前に見えている弥山山頂を目指して木道を上る。山頂直下にある避難小屋で用を済ます。我慢してここまでがんばったＦさんもスッキリさわやか。

大山山頂の避難小屋と島根半島、中海方面

山頂に到着すると、稜線に剣ヶ峰が見えている。あそこが大山の最高地点だが、崩落が激しく、立ち入り禁止となっている。中国山地の西側や氷ノ山方面が見える。ただ山の名前はほとんど分からなかった。視界がよければ四国の剣山や石鎚山も見えるようだ。氷ノ山は加藤文太郎がフィールドとしていた山なので、一度行ってみたい気もする。

少し待っていると、全員が山頂に到着した。集合写真を撮り、休憩してから下山にかかる。下山は、少し大回りになるが、梵字ヶ池経由とする。梵字ヶ池はどれが池なのかよく分からなかった。ただ、このコースにダイセンキャラボ

クの説明板があり、イチイと同じような実の木がダイセンキャラボクであることを知った。

大山山頂にて

夏山登山道に戻り、下っていく。登山者がぐっと増えていて、上りは渋滞している。３連休で天気がよいのが今日だけなので、登山者が今日に集中したのだろう。これから登る人は相当の時間を見ておかないといけないだろう。

山頂から下山にかかる

六合目避難小屋前で昼食タイムとする。シーハイルで作っていただいた５５０円の弁当は、とても豪勢でおいしかった。行者別れから行者コースを下る。こちらに来ると、人は少なくなる。ブナの林がとても美しい。ブナの木に、キノコの大きな塊がついていた。何というキノコなのだろうか？

元谷避難小屋は登山道から少し離れているので立ち寄らないこととする。この付近からは大山北壁が屏風のように立ちはだかっている。とても立派だ。

元谷入口からさらに下り、大神山神社奥宮に出る。とても古く立派な神社だ。さらに下って大山寺に立ち寄る。ここから、シーハイルに行くには、大山寺の車道に下りて車道を歩くコースと、山道を直接往く道があるが、山道を行くことにする。

ツリバナの実

大山寺から、少し来た道を戻り、シーハイル方面への山道を登っていく。思っていたよりも登りが長かった。それでも、宝珠山方面に登る道に合流して下っていく。後から来たＩさんたちは近道を下ったが、はっきりした道がなかったので、私たちは車道に出てからシーハイルに着いた。

シーハイルでは、シャワーを使わせていただき、バス停まで送っていただいた。何から何までお世話になり、感謝です。るーぷバスに乗って米子駅へ。ここで、米子に泊まる４人と、親戚等に行く４人に別れる。

大山寺に到着

☆９月２４日

この日は、安来市の足立美術館に行くＳさんと別れ、山陰地方初めての３人は鳥取砂丘に立ち寄って帰ることにする。鳥取砂丘では、直接馬の背に登る人が大勢行くコースではなく、右側からぐるっと時計と反対回りで歩くことと

する。砂丘に咲く植物や空を舞うコシアカツバメ、５万５千年前の大山の噴火で積もった火山灰の露出地、わずかだが風紋を見ることができた。

鳥取砂丘にて

鳥取駅に戻り、昼食を撮った後、特急はくとで姫路に向かう。山陰本線や智頭急行線はディーゼル特急だった。姫路からの新幹線も座ることができ、ゆっくりと帰路につくことができた。みなさま、お疲れ様でした。　　記：網干

コースタイム

9/23　夏山登山口(6:05)…五合目(7:40-7:50)…六合目避難小屋(8:15-8:20)…弥山山頂(9:20-9:40)…六合目避難小屋(10:55-11:20)…元谷避難小屋下(12:10-12:15）…山の家シーハイル(13:30)

★日ノ出山(10月21日)

参加者　会員(障害者３名、健常者５名)

今回、リーダーとしてこの山行に参加することになった。これまで代役として務めることはあったが、初めからリーダーとして行うのは今回が初仕事。いつもは気楽に参加しているが、今回は緊張しながら当日を迎えた。

川の横を歩く

朝から快晴の素晴らしい天気。家を出るころは若干の寒さを感じたが、武蔵五日市駅に着くころには軽く汗ばむ陽気。アルプ屈指の雨男で通っている私だが、ここ最近は晴れることも多く、もう雨男は卒業でいいかな。上養沢行きのバス乗り場は非常に大勢の人が並んでいた。臨時バスも出て、運良く私たちのところで途切れてたので座っていくことができた。幸先の良いスタートだ。大勢の人が乗っていたバスも大半は途中の秋川渓谷に訪れる人で、上養沢に着くころには私たちだけとなった。バスを降りるとひんやりした空気で心地よい。

いつものように声出しの自己紹介。今回参加いただいたＳさんと初めての方や、久しぶりに顔を合わせる方もいて和やかな雰囲気。私もＳさんとは役員会で顔なじみだが、山を一緒に登るのは初めて。Ｆさんからサポートロープについて指南。基本はザックを触り、大きく動いた時にロープを頼りにするので、ロープは適度にたるませた状態が良いとの事。ついピーンと張りがちだが、実際にそれを頼りにしている人の意見を聞くことができてとても参考になった。

小さな川沿いの車道をゆるやかに登っていく。川にはヤマメも泳いでいた。釣り好きのＳさんはいいところだなぁとしきりに呟いている。２０分ほど進むと柿平園地と呼ばれる登山口に到着。ここから山頂まではトイレはないため小休止。子供が描いたと思われる熊注意の看板があった。なんとなく心が和むイラスト。

ここで調べてきた日の出山の由来を披露。日の出山は奥多摩の入口になるところで関東平野を望むことができ、日の出が良く見えることからついた日の出町にあるから日の出。また信仰の山である隣の御嶽山から見て日の出となる方角でもあることから、このような名前になったという話もある。

階段の続く登山道を登る

身支度を整えて山道に入る。いきなり石の階段が始まる。うっそうとした杉林の中をゆっくりではあるが、ぐんぐんと高度を稼いでいく。３０分ほど登り、養沢鍾乳洞に到着。既に廃墟になっていて今は見ることもできない。数年前にここに来たことがあるＳＫさんが、以前は建物があったと言っていたが、今は跡形もなく完全に朽ちてしまっていた。

センブリ

１０分ほど休み出発。相変わらず景色に変化はなく、うっそうとした森の中を石や木でできた階段を登っていく。日の出山へのルートは御嶽山から縦走する方がメジャーで、今回の私たちのルートはマイナーである。一人だけ地元の管理しているような方とすれ違っただけで他の人と出会わない。ひたすら石の階段が続くが、周りには岩場や石垣のようなものも出てきた。Ｍちゃんの息も荒いが、頑張ってついてくる。ゆっくりと深呼吸をしながら行こうと声を掛けた。

クロモ岩で昼食タイム

ようやく登り切ったところで景色の開けたところに出た。金毘羅尾根だ。東京都心部の景観が開けている。澄み切った青空と緑の山々、遠くの街並みとのコントラストが眩しい。ここから、クロモ岩まで、関東平野を見ながら進む。既に昼の時間にもなっており、山頂まではもう一息ではあるが、都合良くベンチもあり、山頂は混雑していることも予想されることからここで昼食とする。Ｎさんがうっかりお弁当を忘れてしまったようだ。だが、皆からのおすそ分けで十分なエネルギー補給ができた様子。こういうチームワークがアルプの良いところだと思う。

山頂からこのクロモ岩、つるつる温泉の道はメジャーなルートで通る人も多い。子供たちがヤッホーと大声で叫びながら私たちの前を通り過ぎる。昼食を済ませて山頂を目指す。この辺りは地図で見ると分岐が錯綜していて迷わないか心配されたが、しっかりとした道標も整備され特に迷うことなく進むことができた。

山頂へ直登する階段と巻きながら進む分岐があった。巻きながら進む方を選択。後方から

私を呼ぶ声がした。白い可憐な花が咲いている。写真に収めるが花の名前が分からない。Ａ会長の宿題にしようとするが、そういえば以前もリーダ代行をした時に同じ会話をした記憶がある。相変わらず進歩がありません。会長、ごめんなさい。

日ノ出山山頂で三角点に触れる

ほどなく進むと東雲山荘の建物が見えてきた。今日は閉まっていたが、素泊まり３千円で泊まれるようだ。トイレを済ませて山頂へ。金毘羅尾根よりも更に関東平野が開けている。昼も廻っているためか、思ったほどは混雑していない。朝のバスの様子だとつるつる温泉は入場規制が掛かっているだろうということで、少しのんびり休憩することにした。ほんの僅かだが、富士山の山頂の片側を見ることができた。皆で方位盤を囲みながら、そこに書かれた山々について、此処も行ったね、あそこは良かったね等、ブラインドの方に触ってもらいながら会話している。私はまだ登った山が少ないので横でフンフンと聞いていた。いつか自分だって登ってやるぞと心の中で密かに思った。

関東平野を眺めながら行動食の菓子を食べ、下山にかかる。昼食をとったクロモ岩を通過し杉木立に囲まれた、しっかり整備された道を進む。Ｍちゃんは少し下りが苦手であるが、Ｎさんが何も言わずともしっかりとサポートに付いてくれる。本当に頼もしい。Ｓさんも楽しい会話で皆を弾ませてくれる（Ｓさんの恥ずかしい話なので残念ながらここには書けません）。

日ノ出山山頂にて

景色が開けたところで休憩。大きな岩があったので、ここが、ヤマトタケルノミコトが蝦夷征伐の帰路の際に顎を掛けて関東平野を眺めたと言われる顎掛岩と思ったが、それはもう少し先だった。顎掛岩には小さな祠と説明の看板があった。それほど大きな岩でもなく顎を掛けるにはちょっと小さい。周りも木々に囲まれ何も見えないが、大昔は開けていたのかもしれない。

丹沢方面の山々

ジグザグの道を下っていく。まだ１５時ころだが、日は既に山頂の反対側にあるのでやや薄暗い。川のせせらぎが聞こえてきたことろで車道に出る。ここが滝本。今回は顎掛岩を通る山道を進んだが、ハイキングコース新道と呼ばれる舗装林道がクロモ岩の近くまで通じている。エスケープルートとして考えていたが、それを利用せずに予定通りのルートで歩けた。

ここからつるつる温泉まで車道を歩き、途中、機関車バス青春号に抜かれた。これはトレーラ

を改造した路線バス。急げば乗れるかもしれないとつるつる温泉まで早足で行ったが、とても混雑していたので諦めた。のんびりと来たつもりではあったが、予定の２０分遅れでつるつる温泉に着いた。皆の頑張りに感謝！

滝本に到着！

温泉は入場規制は掛かっていなかったが、帰りの拝島で一杯やろうという案が出て、そうなると温泉どころではありません。早速次のバスで帰ることにした。結果、予定よりも早いスケジュールとなった。

拝島まではみな同じだが、ここでバラバラの方角になるので一杯行く人とそのまま帰る人に分かれ解散した。駅から夕焼けに映える富士山のシルエットが見えた。今日の皆の頑張りのご褒美かな。拙いリーダーではありましたが、ご参加いただいた皆様どうもありがとうございました。　　記・写真：井上

コースタイム

魚眠荘前(9:50)…不動の滝(10:40-10:50)…御座山(12:20-13:10)…栗生コース登山口(14:55)

参加者不足のため、高ボッチ山が中止となり、雨のため、登山知識及び技術向上コースの霞沢岳が雲取山に変更になりました。また、雨のため、日和田山岩登り技術講習会が中止となりました。

ハイキング報告

★第 54 回ふれあいハイキング（西沢渓谷）（10 月 28 日）

参加者　会員(障害者２名、健常者３名)

先週の日ノ出山に続いて、今日も好天に恵まれた。中央線の車窓からは、新雪を抱いた南アルプスが見えていた。金峰山の五丈岩も見えていた。

塩山駅に着き、バス停に急ぐ。最初は数人だったが、どんどん人が増え、１００人近くの人が並んでいる。バスに乗り込み、西沢渓谷入口に向かう。

広瀬湖の周囲は、かなり紅葉していた。紅葉の中を歩けるのではないかと期待が膨らむ。渋滞はなく、西沢渓谷入口に到着した。

バスを降り、少し買い物をして出発する。林道の周囲の木々は、紅葉してきれいだ。ただ、以前来たときは、目を見張るような色づきの木々が多かったが、今回は少なく感じる。天気のよくない日が続いたことや冷え込みが少なかったことが原因だろうか？　いつもながら、温暖化が心配になる。

紅葉のきれいな林道を歩く

ネトリ大橋の広場でトイレを済ませて、さら

に林道を行く。田部重治の文学碑があるところで、山道に入っていく。ここからは、沢筋の道になるので、谷側に切れているところは要注意。この付近から紅葉もきれいになってくる。

真っ赤に色づいた木の前で

二俣の吊り橋に出ると、鶏冠山がよく見えるようになる。これまでの４回ほど遡行した東沢を右に見て、西沢に入っていく。いきなり真っ赤に色づいたカエデが現れる。しかし、カメラの露出をプラス補正していたため、色が飛んで薄くなってしまった。今回の前半の写真は、ずべて露出オーバーになっていて、大失敗だった。

西沢を登っていくと、大久保の滝や三重ノ滝が現れる。淵やトロでは、エメラルドグリーンの水流が美しい。人面洞の上の河原で昼食タイムとする。上に広がる紅葉が美しい。人面洞は、よく見ると、対岸の岩が、鼻やくぼんだ目に見える。

人面淵の上の河原で昼食タイム

昼食後は、さらに沢に沿って登っていく。足を滑らせて沢に落ちると命に関わるので、慎重に進む。M君と、そっと手をつないで歩き、写真を撮るときだけ、先に行って撮らせてもらう。

人面淵・上中央やや左に人の顔が

沢にそったコースは、何回かのアップダウンがある。滑りやすいので気をつけて行く。竜神の滝、支流となる恋糸の滝、貞泉の滝と次々に滝が現れる。母胎淵は、水流によってきれいに丸く削られた岩に囲まれた淵だ。次はカエル岩。沢に積み重なった岩がカエルのように見える。

エメラルドグリーンの流れ

いろんな滝を見てきて、最後に待っているのが、日本の滝１００選に選ばれている七ツ釜五段の滝だ。どう見ても釜も５つしかないと思うが、語呂がよいので、付けた名前だろうと思う。しかし、本当に美しい名瀑だと思われる。滝見橋で集合写真を撮る。ただ、休憩スペースはないので、人の流れに沿って登っていく。

ここからが今日一番の登りだ。暑くなったせいか、M君が少し調子を乱したが、上着を脱いだら、すぐに調子を取り戻し、ぐんぐん登っていく。

登り着いたところが、旧森林軌道になる。ここから見えた対岸の紅葉は、なかなかきれいだった。そして、ここからネトリ大橋の手前までトロッコの軌道跡がずっと続いている。ここも

M君と手をつないで歩く。

七ツ釜五段の滝上部

昔、トロッコを操作していた人が、トロッコと共に沢に転落してしまったことが書かれた説明板が２カ所ほどあった。この地方では、転落のことを「ころばし」と言っているようだ。展望のよい「大展望台」を過ぎると、材木を積んだトロッコの展示物がある。昔、トロッコがどんな風に使われていたのか、よく分かり、参考になった。

材木を乗せたトロッコ

M君は、林道をぐんぐん歩く。２回ほど、後から来るメンバーを待ったが、休憩することなく、ネトリ大橋までハイペースで歩いてきた。ネトリ大橋でみんな合流し、西沢渓谷入口に向けて林道を歩く。予定より、３０分ほど早いバスがあったので、それに乗って行くことにする。乗って見てから、そのバスは、山梨市方面に行くことが分かった。山梨市駅にも行くとのことだったので、そのまま乗って行く。

紅葉の色づきは、今ひとつだったと思いますが、好天に恵まれた小春日和の一日を楽しむことができました。　　記：網干

大展望台にて

《参加者の感想》

「久しぶりの参加になりました。長男はなかなか体調が安定しないのですが、最近の安定が本物になってきたかな、と思えるような１日になりました。滝を見たのが嬉しかったそうです。きれいな滝を間近にみて『いいな♪』と、初めて感じたのかもしれません(^o^)

西沢渓谷には五感に感じるすべてで、解放感がありました！

紅葉、マイナスイオン溢れる空気、陽射し、水の音、よもぎ餅…うまく伝えられないのですが、最高！でした…参加できて良かったです。ありがとうございました。ホームページの写真が楽しみです。」記：Ｆ.Ｉ

コースタイム

西沢渓谷入口(10:15)…三重ノ滝(11:10-11:15)…人面洞(11:30-12:00)…七ツ釜五段の滝(12:45)…トロッコ道(13:15-13:25)…ネトリ橋(14:35-14:45)…西沢渓谷入口)(15:05)

その他活動報告

○第 16 回視覚障害者全国交流登山・東京大会に参加

第１６回視覚障害者全国交流登山大会が、六つ星山の会主催で実施されました。今回は、山仲間アルプは、協力団体として参加させていただきました。参加者は、全国（関東から山口県までの１０団体）から１９５名の参加があり、安全確保等で協力していただいた日本山岳会高尾の森づくりの会のみなさま２９名を合わせると、総勢２１６名となりました。

高尾山登山は、2日目の１０月７日に行われ、好天に恵まれて、遠くから参加されたみなさんに富士山やスカイツリーを見ていただくことができました。また、アサギマダラが舞い、シモバシラやヤマジノホトトギス等の花が咲き、ミシュラン３つ星の山を楽しんでいただくことができました。

登山終了後は、語り部の川島昭恵氏の語りや、ピアニスト YOUTA 氏のピアノ演奏を楽しませていただき、その後、懇親会で普段会えない会のみなさんと交流を楽しむことができました。

599ミュージアムから登山スタート

☆１０月６日

山仲間アルプのメンバーは、高尾でお昼を食べてから、１３時にわくわくビレッジに集合し、体育館での会場設営のお手伝いをしました。六つ星山の会の方たちは、午前中から集まり、配付資料の袋詰め等の作業を行っていました。長い期間、ずっと準備を進めてきた実行委員のみなさんに、ただただ感謝です。今日の開催にこぎ着けたことは、それだけで８割は成功したも同じだと思います。

会場設営後は、実行委員のみなさんは、受付等で忙しくしていたと思いますが、私たちは会員同士の懇親を楽しませていただきました。

夕食後は、代表者会議。その後、開会式でスケジュールや山行等の説明、そして各団体の紹介が行われました。

ハードコースを歩く

☆１０月７日

今日は、ソフトコース、ミドルコース、ハードコースの３つに分かれて、高尾山登山を行いました。

山仲間アルプは、ソフトコースとハードコースに参加しましたが、１６名の内、７名はスタッフとして班長か副班長を担当しました。ソフトコースは５班に分かれ、ハードコースは４班に別れて歩きました。

山頂直下を登る

ハードコースは、５９９ミュージアムから１号路を登り、かすみ台からタコ杉を通り、浄心門では、通常のコースが先日の台風で倒れて電線に引っかかった大木の影響で通行止めになっていたため、今まで歩いたことない迂回ルートを歩きました。

次の男坂も通行止めだったため、女坂を登りました。薬王院では、お参りをしながら登り、２０分の休憩を取りました。そして、高尾山の山頂に向かいます。

一丁平の展望台にて(富山三つ星の人たちと)

高尾山の山頂は、山頂標識のところで写真を撮ろうと思っても、多くの人が順番待ちで並んでいるため、休憩せず、素通りとなります。それでも、山頂に待機しているスタッフに通過報告をし、西の端からは、富士山や丹沢の山々が見えました。遠くから来ていただいたのに、富士山が見えなかったら、申し訳ないという気持ちでいたのですが、富士山が見えて本当によかったと思います。

丸山にて

高尾山の山頂からもみじ台方面に下ります。６叉路となっている分岐にもスタッフが待っていてくれて、行く方向を教えてもらえます。この付近は、シモバシラの多い場所。この時期に高尾山に来るのは初めてなので、初めてシモバシラの花も見ることができました。

お昼は一丁平のトイレのある広場。すでにハードコースの他の班はお昼を食べていて、私たち３班が一番最後でした。準備していただいた「山のお弁当」を食べ、再び元気を取り戻します。私たちはハードコースの３班でした。この班は、富山三つ星山の会と山仲間アルプの混成チーム。富山三つ星の面白い脳天気おじさんが、歌を歌いながら歩いています。

歩きにくい道を下る

城山は、東京方面の展望がとてもよい山。ここで２０分ほど休憩します。暑かったので、かき氷を食べたいと思いましたが、時間がなかったので、アイスクリームにしました。それでも、とてもおいしく、身体も冷えて元気をもらいました。

アサギマダラ

城山からは小仏峠に向けて下ります。小仏峠から、スカイツリーが見えました。富山のみなさんは驚いていましたが、見てもらうことができて、本当によかったです。あとは、小仏のバス停に向かってぐんぐん下ります。

小仏にバス停に１５時頃着きましたが、私の聞き間違いもあり、バスが到着する１６時２０分まで待つことになりました。それでも、バス停の手前でビールを売っていたのは助かりま

した。

閉会式

わくわくビレッジに戻り、大混雑の浴場で汗を流し、夕食を食べ、川島さんと YOUTA さんの講演を聞きます。その後、学習室で懇親会の始まりです。歌やいろんな話しで交流を図り、山の疲れでいつの間にか眠りに落ちていきました。

☆１０月８日

今日は閉会式。３つのコースからそれぞれの参加者を代表して、報告と感想が発表されました。閉会の挨拶は、なんとか私が務めさせていただきました。

会場の撤収を手伝って、山仲間アルプは帰途につきました。

遠くから来ていただいたみなさま、楽しいひとときを一緒に過ごさせていただき、感謝です。六つ星山の会の実行委員会のみなさま、本当にお世話になりました。ありがとうございました。

記：網干

◎役員会から

・NPO 法人の解散手続きがすべて完了しました。今後は、任意団体として、これまでの活動を継続していきます。みなさまのご協力をよろしくお願いいたします。

各 種 連 絡 事 項

▲来年度の登山計画作成中

２０１９年度の山行計画を立案中です。今回から、リーダーをになっていただく方に、自身でリーダーを務める山を選んでいただくことにしました。どんな山を誰がリーダーを務めるか乞うご期待！

会　員　情　報

７月以降、入会された方も退会された方もいませんでした。

編 集 後 記

・会長のつぶやき

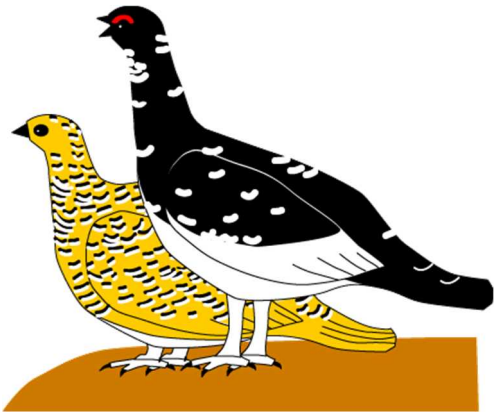
私が中学生の頃、「巨人の星」や「タイガーマスク」などの漫画が人気で、私も欠かさず見ていました。これらの漫画は、スポ根ものといわれて、根性を付けさせるための漫画と言われていたように思いますが、これらの漫画は、根性だけではない、人間として様々なことを教えてくれました。原作者の梶原一騎氏の考え方とも言えますが、子どもの頃に出会ったことで、決して忘れることのない教えもたくさんあります。そんな一つに、「巨人の星」でこんな場

面がありました。剛速球と針の穴も通すコントロールで、大活躍していた星飛雄馬が球質の軽さを見抜かれ、打たれるようになりました。それで、あるお寺で座禅を組んでいました。しかし、一度、警策（こん棒のような板）で打たれた飛雄馬は、打たれまいとして身体に力が入ってしまい、何度も打たれます。そこで講話をした住職さんに、「そこの若い人は、よく打たれますな。身体がコチコチだ」と言われました。みんなの前で恥をかかされたと感じた飛雄馬は、開き直って、「打つなら打て」という気持ちになりました。その後、打たれなくなったのを見た住職は、飛雄馬の心を読み取り、「じじいに恥をかかされ、開き直って打つなら打てという気持ちになったようだな。それで、身体の力が抜けて打たれないようになった。打つなら打てという気持ち、さらに一歩進んで、打ってもらおうという気持ちになることが大切」と話しました。漫画なので、その後は、この言葉にヒントを得た飛雄馬は、打者のバットに当てる大リーグボール１号を編み出します。

ストーリーは漫画ですが、原作者の伝えたい思いは、とても心に響きました。人から批判されまいとすればするほど、心がゆがみ、批判されてしまう。それよりも、自分は未熟な人間だから、どんどん批判してくださいと思う気持ちを持つこと。それは、謙虚な気持ちでいることと同じです。謙虚な気持ちは、人を成長させてくれます。

あの頃の漫画は、そんな大切なことを教えてくれていました。今でも感謝の気持ちで一杯です。

・次回発行予定は、３月頃を予定しています。

参加申し込みやお問い合わせは下記まで
〒276-0022　千葉県八千代市上高野 1161-1-208
山仲間アルプ　　網干　勝
TEL.047-484-8308

障害の有無も、年齢も、男女も関係なく、みんなで山を楽しみたいね。
自然は、誰に対しても平等だよ！！